

かえる便り 30年度10号

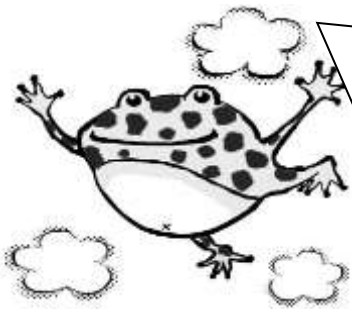
平成30年6月6日

入梅の候、皆様にはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

6月6日は色々な記念日に制定されていますが“カエルの日”でもあります。また、“稽古始の日”でもあるようです。『稽古とは、芸能、武術などの技術を学習するだけでなく、その歴史や伝統、道理や作法などあらゆる先例を学ぶことだそうです。』

愚者は経験に学び、賢者は歴史に学ぶ

ビスマルクは「自ら失敗して、その経験から学ぶのは愚者のすることだ」と言っています。自分の失敗だけでなく、他人の経験を参考にして自らの生き方に活かすことができるのが人間だ!! と誰もが思っているでしょう…?



自分の失敗を詳細に分析して、自分自身の言葉でわかりやすく説明できる人は成長すると思いませんか？ 何故なら、“どの段階”で“何が悪かった”ということが分かるから、次に活かせるのです。ここで、何が悪くて失敗したのかが分からない人は、同じ過ちを繰り返すでしょう。自分の失敗を深く掘り下げて学ぶと同時に、先人が蓄積してきた知識を吸収してほしいものです。 だって人間だから!!

“カエルの日・稽古始の日”に自分を伸ばし目標を達成するための具体的な方策を考えて欲しいものです。そのためには、今回の総体を詳細に分析することが必要ではないでしょうか？（勿論、中間試験の反省・分析も必要だし行って下さい）

人生は選択の連続です。食事を何にするか？どのような服を着ようか？等の些細なことから進路などの大きな選択を迫られることもあります。サッカーも選択の連続です。今まで自分が選択したプレーがチームや自分にどのような結果をもたらしたかを真剣に考えたことがありますか？仲間を助けるプレーが出来ているか、出来てないとしたら何が原因かを考えて欲しいものです。そして、大切な試合で本当に仲間を助けられる存在になるために、自らを追い込むことが必要であることを理解して下さい。“出来なかったことができた感動”は“大きな感動につながる”ことを知って欲しいものです。 “感動が感動を呼び、自他を成長させるのです”